

研修会だより

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 8階
電話 011-204-5781 ファックス 011-261-7431
E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp
ホームページアドレス http://manabi.pref.hokkaido.jp/



住民の社会参画を促進するための「仕組み・仕掛け」を整理！ 「人材の発掘・養成」「複数団体・関係機関等との連携」「社会教育主事等の社会教育行政担当者とのかかわり」

◆◆平成26年度地域生涯学習活動実践交流セミナー終了◆◆

＜研修テーマ＞ 『『新しい公共』の担い手を育てる社会教育行政の在り方について』
～住民の社会参画促進のための社会教育施策の展開について～

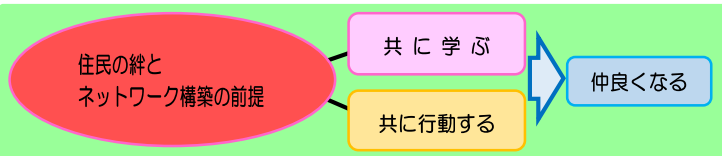
平成27年2月17日（火）、18日（水）に道民活動センタービル「かでる2・7」を会場に、平成26年度地域生涯学習活動実践交流セミナーを開催しました。200名の定員に対し、社会教育を担当する行政職員を中心に、社会教育関連施設や青少年教育施設職員、生涯学習・社会教育関係団体の職員等、生涯学習・社会教育に関わる関係者が道内外から289名参加し、「住民の社会参画を促進するための社会教育施策の在り方」について考えました。本号では、講義や協議などを通して学んだ研修内容のポイントを紹介します。

社会教育は理想論（理屈）を言う前に実践を！ 「共に活動する」地域住民の絆とネットワーク

「地域のために『共に活動する』住民の絆とネットワークづくり
～共に学び・行動し・同士になる～
九州女子大学 共通教育機構教授 大島まな氏（基調講義から）

社会教育は実践！
理屈ではなくやってみること！
そして、地域の人との交流も大切です！

大島まな氏
専門分野は、地域社会と成人の学習、生涯学習
推進方策、青少年教育など



日本の社会は課題が山積

〈課題〉限界集落・高齢化・少子化 etc
社会教育は地域課題に対処するモノ ⇒

しかし、社会教育が…
地域課題の解決に有効
であることを証明でき
ていない

◇ 社会教育 = 生涯教育
(生涯にわたって学び続けるという発想)

◇ 「生涯学習」に言い換えられた…(?)

◇ 大人は → 「教育」を受ける(?) という感じではない…

学習者中心へ・自発的な学習へ

法・答申・計画が示したこと

- (1) 人々が学習する必要のある課題(遅れてきた宿題)… 現代的課題
◇ 生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」(平成4年7月)
- (2) 個人の要望と社会の要請に学習成果を生かす
◇ 「教育基本法」第12条(社会教育)の一部改正(平成18年12月)
- (3) 個人の学びを地域に活用(良い循環を)、自分たちで何かをしなければ(学びの必要性)… 学習成果を社会に生かす
◇ 中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」(平成20年2月)
- (4) 社会教育への大きな期待、社会全体の教育力の強化
◇ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月)
* 基本的方向性4 絆づくりと(互助・共助)による活力あるコミュニティの形成
* 4つの柱と30の施策(社会教育推進体制の整備を示す)

(しかし) 生涯学習実態調査から見たモノは…

- ◇ 趣味、習い事、健康・スポーツ、レクリエーション的な講座の増加
自分たちが楽しく、自分たちに成果が返ってくるモノ(大事なことはあるが…)

問題は、この『バランス』

- ◇ 地域に山積している課題に対する講座は…
「住民自身が地域を支えていく」という考え方の必要性
一部の人だけでなく、税金を払っている多くの人に還元する講座…「公的支援」を

(このような背景から) 社会教育の力で地域を変える

- ◇ 地域を変える視点
(1) 社会教育 ⇒ 地域の教育力を高める
(2) 家庭教育 ⇒ 「家庭教育は困難、だからやめる(?)」ではなく…
貧困による教育格差を無くすために、地域の経済力を高めるような
取組を促進することも、社会教育の役割
(3) 子育て支援 ⇒ 子育て支援が行き届かない「共稼ぎで…」「学校の先生忙しい…」
学校支援、地域で支援する
- ◇ このような取組を促進するためには…
日本人は地域の絆を… ⇒ 地方から都会に出た多くの方は「絆」が煩わしく感じている
- ◇ (しかし) 「地域の教育力」「家庭教育力」を高めるためには…
* 「教育」を視点としたプログラムがあるか? (いろいろと思うところはあると思うが)
* 「地域活動」を視点としたプログラムがあるか?
* 「子ども対象」のプログラムはいっぱいあるが、
どういった目的のプログラムなのか?
プログラムの「質」と「量」があれば、最低限のことが
できるはず!

(そのために) 何を考え、何をすべきか…

- ステップ1 「つながって何をやるか」(が大事)
◇ 「何のために」「何をやるのか」をプログラムに顕在化させることが必要
* 中身が「お楽しみ体験」ではダメ!
◇ 自分で「何をやるのか」を考えて行動させる
- ステップ2 「目的に沿って『つながって』何をやるのか」
◇ 同じ目的の「同士」と仲を深める ⇒ 場の共有は経験の共有
* 「経験の濃さ」と「時間の長さ」によって仲が深まる
※ 場を仕掛けていくことが大切
- ステップ3 コミュニティの形成
①地理的空間 ②目的の共有 ③心の絆(連帯感)
◇ コミュニティを成立するためには「目的」を共有することが大事
* 「目的の共有」ができる場をつくる
* 「目的の共有」をした活動をする
◇ 「連帯感」は共に活動しないと生まれない

(このようなステップを踏んだ活動から)

地域の絆が構築され、互助・共助の取組が生まれる！

事例発表・協議から見えた「住民の社会参画促進」の Point !

当推進センター調査研究から導き出した「住民の社会参画を促進する要素」(仕組み・仕掛け)

3つの視点	要素 (仕組み・仕掛け)		
リーダーの発掘・養成	◇ キーマンの選定 * 人とのつながりを持っている	* 場の雰囲気を作れる	* まちへの思いがある
複数団体や関係機関等との連携	◇ 学びの生まれる場の設定 * 活動の場が提供できる	* 知識や技術の提供	* ネットワーク体制(地域の応援体制)が確立できる
社会教育主事等の社会教育行政担当者の関わり	◇ 長期展望に立った見守り・キーマンへの支援 * 課題の投げかけ * 学びの場や活動の場の提供	* 課題の気づきから実践への導き * 企業・団体との接続	* 目標に向けた活動の整理 * 地域の応援体制の確立への支援

上記の要素を意識した取組の実践から見えてきたもの

パネルディスカッションでは…【実践の成果・課題と方向性】

【実践の成果と課題】

- ◇ 地域のキーパーソンと地域住民(高校生~大人)をつなぐ社会教育行政担当者の関わりが重要
- ◇ 地域住民同士が話すことのできる「集いの場」を構築することが必要
- ◇ 地域住民同士を共通の利益(公益)を重視してつなぐことが大切
- ◇ リーダー等の役割分担を明確にした地域住民の育成が必要

課題が明確になったのは実践

【今後の方向性】

- ◇ 自ら考え行動できる地域住民を育成するための「自助・公助」を意識した取組の推進
- ◇ リーダー、フォロワーなどの役割を明確にした取組の推進
- ◇ 「社会教育主事」の力が必要とされる取組の推進
- ◇ 地域課題(生活課題)を明確にした団体の自立を踏まえた取組の推進



研究テーマのまとめに迫る

事例発表から見えた Point !

〈事例発表 1〉

- 事例 1 * いろいろな形での社会参画があるので、すべての人がリーダーとして力を発揮するわけではない
- * リーダーを支える「フォロワー」を養成する必要がある
- 事例 2 * 多くの団体とつながり、自分たちで企画運営することが、自信へとつながる
- * 住民の社会参画は「地域の力」に直結する
- 事例 3 * 各団体が活躍できる場の提供が重要である
- * 参画への「芽」である「何かしたい」から、一歩踏み出すための支援が大事である
- * 地域住民同士が、自然に交流できるわけではないので、社会教育主事が「場」をどう仕掛けるかが大事である
- 事例 4 * 個の学びや活動を他者に伝えることが、学ぼうとする意欲へとつながり、学習者同士の輪も構築される
- * 個人の自己肯定感や幸福感がアップすると、新たな発見や刺激を求める「深化欲求」が生まれ、循環型学習へとつながる

〈事例発表 2〉

- 事例 5 * 時代のニーズを捉えた学習機会を重要視することが大切である
- * 産学官が連携する仕組みづくりと、役割を明確にした取組を構築していくことが大切である
- 事例 6 * 若者がたくさん集まるきっかけづくりをすること、若者が地域の活性化を目指す過程において、何のため、誰のために活動するのかを考えさせることが大事である(全員が達成感を感じられる活動の場と、機会の提供が重要)
- * 若者も社会教育主事・社会教育行政担当者も、やるべきこととやりたいことを区別し、活動を検討していくことが大切である
- 事例 7 * 産学官と連携しながら、高校生に地域社会の一員であること、自分自身の力で課題を解決できる力を身につけることが大切であることを気づかせる必要がある
- 事例 8 * 社会教育主事・社会教育行政担当者として、地域の担い手(中学生)を育成するためには、きっかけづくりと、やりたいことができる環境づくりをすることが、地域で活躍するまちの人材育成には重要である

協議でまとめられた Point !

〈協議 1〉

- ◇ リーダーとは？
- * 同じテーブルに立って、役割分担し、物事をしっかり伝える力を持つ者
- * 社会教育行政担当者の仕事は？
- * 年齢や団体によって求められるものは違うが、参加しているもののベクトルを前向きにする力を持つこと
- ◇ 3つの要素から
- * 団体を自立させるアプローチとほどよい距離感を持って取組を推進することが大切

〈協議 2〉

- ◇ 社会教育行政担当者の関わり
- * 人と人、団体と団体との接続には、社会教育行政担当者の関わりが重要
- ◇ 複数団体・関係機関等との連携
- * 人材(リーダー)と同じ思いを持つ仲間(人)、地域の団体等との力をつなぐことが重要
- ◇ 地域の素材を生かす
- * 人材を見つけてどう生かすかを考えることが大切

〈協議 3〉

- ◇ リーダーの発掘・養成
- * リーダーの高齢化と新しい人材の発掘は大きな課題
- ◇ 社会教育主事の関わり
- * 我慢すること、ロイヤリティを出しすぎないことが大切
- ◇ 今後の方向性について
- * 地域課題を明確にし、課題解決に向けた参画の在り方を示す学習機会と場の提供をしていくことが大切

〈協議 4〉

- ◇ 住民の社会参画に向けた今後の方向性
- * 人材の育成を含め、住民主体とした活動につなげる体制整備が必要
- * 地域課題に合わせたプログラムを実践者(個人・団体)と社会教育行政担当者等が支援しながら構築することが必要
- * 「ヨソモノ」との連携が活動者の刺激となり、活動の活性化につながるポイント

〈協議 5〉

- ◇ リーダーの発掘・養成について
- * 社会教育行政担当者の積極的な行動とたくさんの出会いの場をつくることが大切
- ◇ 複数団体・関係機関等との連携
- * 団体等との連携については、相手のメリットを明確にした上で、give&takeで対等な関係を構築することが大切
- ◇ 住民の社会参画を促進するための今後の方向性
- * 地域住民に課題解決の取組に関心を持ってもらうための仕掛けと人材に出会うための仕掛けが必要

〈協議 6〉

- ◇ 住民の社会参画を促進するための今後の方向性
- * 関係機関・団体等とのネットワークの構築と社会教育行政担当者等が寄り添い一緒に活動体制を構築することが必要
- * リーダーや活動に関わる人材への学習機会・活動の場の提供が必要
- * 育成している人材から「離れる」「離す」タイミングが重要(離れることで人材の意識を変える)

〈協議 7〉

- ◇ 住民の社会参画を促進するための今後の方向性
- * 社会教育行政担当者として「人が集まらない現状」とどこに声をかけていけばいいのかわからない」という大きな課題を再度見直すことが必要
- * 「リーダーの発掘・養成」「複数団体・関係機関等との連携」において、どちらもwin-winの動きかけをすることが重要
- * 「楽しい」から始め、次につなげる仕掛け・仕組みを考えていくことが大切

〈協議 8〉

- ◇ 住民の社会参画を促進するための今後の方向性
- * 若い人材の柔軟な発想を地域の活性化につなげるためには、地域の大人の支援の仕方を見直すことが必要
- * 若い人材が、地域で活躍できる環境と地域課題の解決に向けて考える学習の場を提供することが必要
- * 地域の人材を育成する人材(関係機関・団体等)を養成するためのシステムの構築が必要

●本研修会事業報告書について●

「平成26年度主催講座一覧」(<http://manabi.pref.hokkaido.jp/center/jigyo/h26/index.html>)に掲載していますので、本研修会だよりとあわせて御覧ください。また、本研修講座の内容や資料についてのお問い合わせは、担当：會田 ☎ 011-231-4111 (内線 36-326) まで御連絡ください。

